

課題名 AI を活用した眼科疾患診断支援システムの事業化

代表機関：合同会社G-Data

分担機関：株式会社ニデック、株式会社ビーライン、一般社団法人Japan Ocular Imaging Registry、九州大学大学院医学研究院、京都大学医学部医学研究科、山梨大学医学部附属病院、山梨県厚生連健康管理センター、一般財団法人健康増進財団

全研究開発期間：2022/6/13～2025/3/31

背景・目的：健診時の眼底撮影画像の増加で読影の負担増大

- 健康診断の増加により読影枚数が増加し医師の負担が増大。
- 健診・ドックの9割が正常であるが、偽陽性が多く含まれる要精検率が高く、医療費が増大。
- 眼底所見に顕在化しにくい疾患は偽陰性が多く受診者の失明リスクが増大。

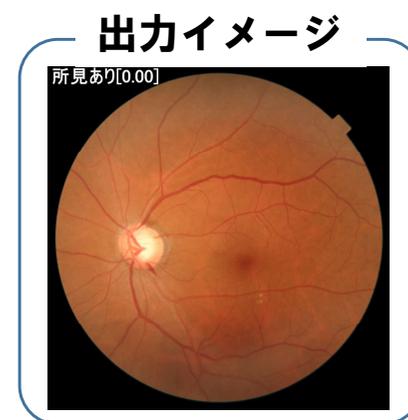
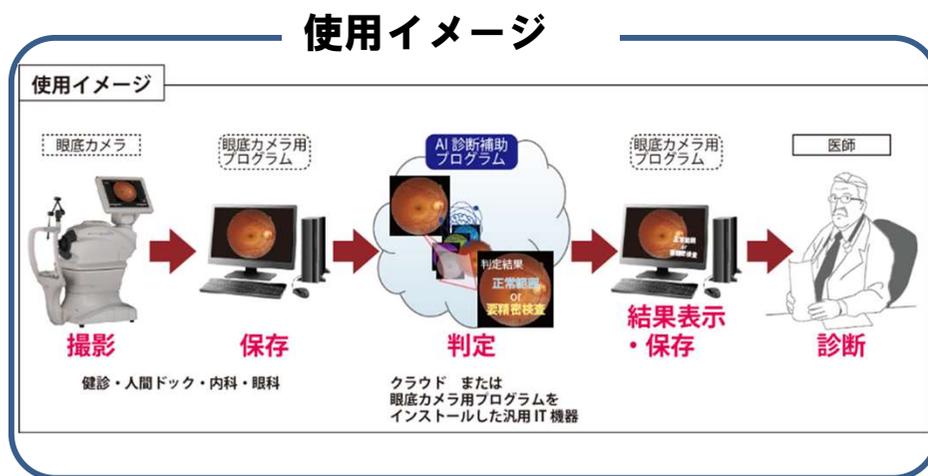
取り組み・成果：読影医の負担軽減と医療費の削減

- 日本眼科学会のレジストリ事業を行うJapan Ocular Imaging Registry (JOI Registry)が開発したAIエンジンのライセンス供与を受け、眼底カメラで撮影された眼底画像の読影補助を行うプログラムを医療機器として薬事承認申請を行い現在審査中。
- 偽陰性、偽陽性の減少により、受診者、読影者の負担軽減や医療費削減が期待できる。
- 眼底所見に顕在化しにくい疾患の早期発見、早期治療介入による失明者の減少が期待できる。

今後：AIによる眼底画像診断支援で健康診断に革新を起こす

- 医会・学会と協同して眼底検査の重要性の啓発をおこなう。
- 保険診療を目指した眼科臨床向けの個別疾患対応のAIプログラムを開発する。

概要イメージ



クラス II（予定）